

第202回 友の会 奥貴船

～早春の芽ざめ～

日時：2022年3月27日（日）

場所：京都市左京区貴船一带

天候：晴れ

参加者：28名（うち子ども1名） スタッフ22名 合計50名

前日は雨で、当日の朝方までぐずついた天気ですごく心配でしたが、集合時間にはすっきりと晴れ渡っていました。叡山電鉄の貴船口駅前からのバスに乗れる人数を考えて、電車も9時15分と30分の2便に分散して出町柳から乗り込みました。

今年の冬は3月を過ぎてからも強い冷え込みの日があり、昨年と比べて京都市内でも桜はまだ満開にはなっていませんでした。特に貴船は京都市内でも北の方にあたるので気温がさらに低く、どんな物が見られるかが気かりでした。

貴船行きのバスは道路状況により、貴船臨時停留所までの運行となっており、従来の停留所まで歩いて行き、受付を行いました。点呼のために輪になって並ぶとなかなかの人数でした。



貴船神社鳥居



カテンソウ

受付をした場所から観察会の開始です。バス停付近の法面には、薄い紫色のタチツボスミレと濃い紫色のキラソウ、白花のスズシロソウ、黄色の花粉が目立つカンスゲ sp. 深い青色の実が美しいジャノヒゲ、花粉の飛ぶ仕組みが面白いカテンソウなど観察する植物が盛りだくさんで、ほとんど前進できない状態になっていました。

少し進むと、スギを伐採した場所に花卉の先が黄色くなった花を咲かせたミツマタがあちらこちらに見られました。ミツマタは紙幣の原料になる植物です。その先

には、小さな花を咲かせたヤマアイがありました。ヤマアイは6世紀頃に中国から蓼藍（たであい）が入ってくるまで摺り染めの染料として用いられた植物です。

しばらく歩くと、大きな赤い鳥居が私たちを出迎えてくれました。貴船神社の本宮の鳥居です。その鳥居から本宮に向かう階段横には、萼片の黄白色の花のように見えるトウゴクサバノオが多数見られました。果実の形がサバの尾に似ていることから名付けられたといわれます。今回は残念ながらサバの尾のような果実はまだ見られませんでした。可憐な白い花を咲かせたミヤマカタバミ、大きな葉のウバユ



たくさんの方と観察会

リがあり、イチリンソウとニリンソウが並んで生えているところでは、葉の特徴の違いを実物で見てもらいながら説明できました。本宮の前には樹齢四百年、樹高三十メートルのカツラの御神木があり、赤い花芽が見られました。本宮の霊泉前にはトウゴクサバノオの花が、そして霊泉の右手の石垣の上には紫色がかかった白色のキクザキイチゲが、私たちを見下ろすように美しく咲き群れていました。

貴船神社の参拝は三社詣といい、貴船山の麓にある本宮、奥宮、結社（ゆいのやしろ）をお参りします。本宮の社殿前の石垣からこんこんと溢れる御神水は貴船山の湧き水で、霊泉に浮かべると文字が浮かぶ「水占みくじ」で有名です。奥宮は貴船神社創建の地で、本殿の真下には「龍穴（りゅうけつ）」と言われる大きな穴が空いており、その上に社が創建されています。結社は縁結びで有名な社です。平安時代、女流歌人であった和泉式部が夫の心変わりに思い悩んだ際に参拝し、歌を捧げて祈ったところその願いが見事に叶い、以来「恋の宮」と称されたところで、この日もたくさんの方が参拝に訪れていました。

その結社の入り口あたりにはミヤマカタバミやヤマハリソウの花が見られました。シュンランがあと少しで咲こうかという状態のつぼみをたくさんつけていました。すぐ横には珍しいギンリョウソウモドキの果実も見られました。

奥宮の門の手前には、「相生の杉」と呼ばれる、同じ根から生えた2本の杉があります。とても高い杉の木で、樹齢千年になるといわれています。相生は「相老」に通じ、ともに年老いるまで仲良く寄り添って生きていけるようにという願いが込められて名付けられたそうです。門をくぐって奥宮までの参道には、花は咲いていないものもありましたが、イチリンソウ、フウロケマン、ラショウモンカズラ、ヤマハリソウ、マルバコンロンソウ、ツルカノコソウ、スズシロソウなどが見られました。



ギンリョウソウモドキ



ミヤマカタバミ



キクザキイチゲ

奥宮横の貴船川の河原で、木々の新緑と川のせせらぎに囲まれて昼食を取りました。食後はいつものように店開きです。まずはカテンソウの花が花粉を飛ばす仕組みを実演を交えながら説明したあと、これから見られるチャルメルソウの魚の骨のような花卉の特徴を絵を使って解説しました。そして、このあたりでよく見られる植物の実物を見ながら名前を言って当ててもらいました。最後に、溪流魚であるアマゴを説明図を使って詳しく解説しました。

食後は奥宮に入った後、上流の方に向かって歩いて行きます。右手の法面には、ホンシノブゴケ、スギゴケなどのコケ植物がたくさんあり、テイカカズラ、ヤマネコノメソウ、ボタンネコノメソウ、チャルメルソウ、ミヤマカタバミ、カテンソウが見られました。カツラの木の近くに、コチャルメルソウが花を咲かせていました。参加者に見てもらおうとほと

んどの人が「わあ、すごい！」などと感動の声をあげられていました。

ユリワサビの小さな白い花を見たあと、フサザクラの花を見ました。多数の雄しべが房状に下がる姿を桜に見立てたことから名前がつけられたとか…、桜と違って花には花弁も萼もありません。サクラの仲間はバラ科ですが、このフサザクラはフサザクラ科に属しています。葉がクワの葉に似ているところから別名タニグワ、クワモドキなどとも呼ばれています。



フサザクラ

そのあと、フッキソウ、イチリンソウ、ギンレイカなどがあり、滝谷峠に行く分かれ道のところで折り返して同じ道を帰りました。帰り道、貴船神社の本宮の鳥居のところで、ハナネコノメソウか、あるいはシロバナネコノメソウかもしれない花を見つけました。同じ道でも行く道で気づかなかったものを帰り道で見つけることがあるので、とても面白いです。

この日は参拝者や春の観光客が多い季節で混んではいましたが、他では見られない貴重な植物がいろいろと見られたので、実り多い日になりました。

(文責 細川幾由)



カテンソウが花粉を飛ばすところを実演
楽しくってカテンソウ覚えましたよ



河原で昼食後店開きが始まります



アブラビレはどこにあるかな



楽しい店開き



スゲの仲間



シュラン



コチャメルソウ



コショウノキ



コチャダイゴケ



トウゴクサバノオ



タチネコノメソウ



アオハコベ



ポタンネコノメソウ